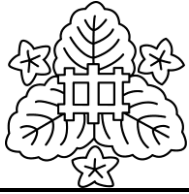


2015



石神井中だより

平成27年10月23日 発行 10月号

- 明るく、健康な生徒
- 正しい判断力を持ち、主体的に
学び行動する生徒
- 豊かな情操を持ち、品位ある生徒

<http://www.shakujii-j.nerima-tyky.ed.jp/>

揺るぎない自分

校長 田中 隆史

現在は、「グローバル化」と言われ、世界中の国々や人々が国境を越えて、より緊密に結び付こうとする社会になってきています。

例えば、人間や物資、情報などが国境を超えて、素早く安価に移動できるようになってきています。日本の食文化や日本製電化製品もグローバル化の一翼を担い、Sushi、Tempura、Karaokeなど、日本語がそのまま英語になって使われています。日本の人気アニメ番組やゲームソフトも輸出され、世界中の子どもたちを楽しませています。

このようなグローバル化した社会の中で各国の人たちと協力しながら、逞しく生きていくためには、次のような能力や態度を身に付けていくことが大切だと言われています。

一つは、異なる国籍や文化を超えて、互いにひとつのものを創り上げようとする能力や態度です。英語を中心とする言語能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度もそのひとつだと思います。

二つ目は、多様な生活習慣や文化をやさしく受け入れるしなやかさです。

三つ目は、自分自身を見失わないアイデンティティです。

このアイデンティティという言葉は、最近、様々な場面で使われるようになってきました。この言葉を辞書などで調べてみると、アメリカの精神分析医であるエリクソン氏が唱えた概念であり、「自我同一性」という抽象的な言葉で説明されていました。

分かりやすく言い換えるとすれば、「自己の存在証明」のことだと思います。「自分とは何か」「これからどう生きていこうとしているのか」「どんな職業に就こうとしているのか」「自分なりに生きるにはどうしたらよいのか」などを見つけ出し、「これが本当の自分だ」と自分自身の存在を証明するものです。

これを身に付けている人は、自分に自信が持てるようになり、それが心の拠り所にもなるため、多少困難なことが生じてもへこたれずに乗り越えることができます。逆に、身に付けていない人は、何事にも自信が持てなくなり、目標に向かって努力したり、周囲の人たちと好ましい関係を築いたりすることが困難になります。

現在、生徒の皆さんは自分自身を形づくる青少年期の真っ只中にいます。青少年期の心の発達課題は、「これが本当の自分だ」という揺るぎない自分を確立させることです。皆さんには、この期間に様々なことに挑戦し、多くの失敗を繰り返す中で「これが本当の自分だ」という揺るぎない自分を見つけ出して欲しいと思います。

この揺るぎない自分は、これからの国際社会を逞しく生きていくために大切なものであると同時に、現在の日常生活や学習活動でも不可欠なものです。